

学力向上に効果のある取組事例

国東市立安岐中央小学校

取組の具体

◆安岐中央小スタンダードの徹底(授業改善ハンドブックの活用)

*学級づくりをベースにして

- [伝え合い]を支える・・・学習規律・人間関係づくり
考えをもつ場・交流の場の設定
- [自分の考えをもつ]・・・子どもが意欲的に取り組む課題の設定
ワークシート・思考ツール等、考えをもたせる工夫
- [進んで伝え合う]・・・効果的な学習形態の工夫
子どもの意見をつなぐ支援の工夫
- [ふり返りの視点]・・・学びを振り返り、学びを深めるふり返りの視点や方法を共有
- 個別の支援・・・複数体制で授業を行い、困りを抱える児童への個別の支援を行う。
- 互見授業・・・授業観察シートに記入して振り返り、互いの授業力アップにつなげる。
- 単元テストの結果の共有化
 - ・テストの共通集計ソフトに入力し、児童名入りの分布表をファイルに綴じる。
 - ・各教科の復習に生かすだけでなく、個別のつまづきを職員間で共有し、指導に活かしている。

◆外部団体のサポート

○親子ふれあい週間

- ・学期に2回親子で宿題等に取り組む活動を実施。取組状況を主幹教諭が集計・分析し、教職員で共有し家庭に還流している。親子で取り組むことで、宿題確認や家庭独自の取組・生活習慣が定着し、自尊感情等が向上してきている。

○ぐんぐんタイム

- ・週に1回、担任を含む複数体制で、朝の帯時間にドリル学習に取り組んでいる。丸付けは、保護者や地域のボランティアの方がしてくださっている。その間、担任は個別に定着できていない児童へのきめ細やかな指導ができています。

○学びの教室

- ・教職員OBが、希望者を対象に毎月3回放課後に学習指導をしている。基礎基本の内容を中心に力をつけてきている。

R5 安岐中央小 授業改善ハンドブック

- 1 伝え合いの場面
(共有化のスキル・教師の役割・場面・視覚的に共有化)
- 2 有意義なグループ学習のために
- 3 算数授業の「しかけ」と「しこみ」
- 4 指導案作成・板書・ノート指導の留意点



有意義なグループ学習のために

なぜグループ学習にするのか、そのねらいを子どもたちと共有し、見直しをもって活動できるようにしましょう。

▷「ペア学習」の意義

- ① 気軽に意見が言えたり、相談したりできる。
- ② 自分の考えを確かめ、自信をもつことができる。
- ③ 自分と違った考えに気づくことができる。

▷「グループ学習」の意義

- ① 自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。
- ② 学習が遅れがちな子や、消極的な子も発言しやすく、話し合いへの参加が期待できる。
- ③ 子ども同士で主体的に学習することができる。

▷「有意義なグループ学習のために」

1<必然性> グループだからこそ効果が出る必然性のある学習場面を設定する。

- 〈例〉・多面的な思考(多様な考えや意見)を引き出す必要がある場面で。
 - ・対話によって思考を深めたり広げたりする必要がある場面で。
 - ・発想の質を高め合う必要がある場面で。
 - ・自分と他の意見を対比させて考えることで思考を深める場面で。
 - ・一つの作業や実験をともに、考えを深める場面で。

2<ねらい> グループ学習のねらいを明らかにする

- 〈例〉・自分の考えを確かめにして深めるために。(自信)
- ・他の考えに気づき、思考を広げるために。(ヒント)
- ・みんなで考えを練り上げるために。(練り上げ)
- ・考えの相違点・共通点を聞き合うことで思考を深めるために。(比較)
- ・考えを出し合い協働して解決するために。(協働)
- ・新たな考えを創り上げるために。(新たな発想)

3<学習形態>ねらい・学習内容・子どもの実態などに応じて、学習形態を選択する。

- 〈例〉・生活班(人間関係が定まっている)の人と。
- ・同じ(違う)考えの人間同士で。
- ・同じ資料で調べる(調べた)人と。
- ・違う資料で調べた人が一人ずつ集まったグループで。

